

第 66 期同窓会入会式報告

令和 7 年 2 月 28 日 岐阜東高等学校同窓会 役員会

第 66 期ご卒業の皆さん、おめでとうございます。

本日、岐阜東高等学校 5 階講堂において、第 66 期生 240 名の岐阜東高等学校同窓会への入会式を行いました。コロナの騒ぎも落ち着き、従来通りの卒業生全員出席による入会式となりました。やはり、卒業生全員揃っての入会式は、晴れ晴れとしています。

一.	閉式の辞
一.	卒業記念品授与
一.	クラス幹事任命
一.	同窓会賞授与
一.	会則の説明
一.	会長挨拶
一.	開式の辞
	式次第
	第六六期 同窓会入会式

清水治幸（13 期卒）副会長の「起立！礼！」の号令と共に入会式に入りました。

坂井至通（12 期卒）会長の挨拶では、「不易流行（ふえきりゅうこう）」と「や



り抜く精神」との拘わり
についての話しとなりました。「不易流行」の読み
方は解り難いとのことで
紙に書いての説明でした。

「不易(ふえき)」の「易」

は、交換するとか替えるとの意味があり「貿易」の「えき」と同じです。しかし、「不」の文字が付いているので反対の意味になり、本質的に変わらないものを指しています。一方で「流行(りゅうこう)」はその名の通り、現時点で変化して行くものの意味です。「流行語」を思い浮かべたらと良く理解できると思います。この2つの意味をうまく調和させて、古い事でも本質的に変わらぬものは忘れずに、今の時代の新しく変化しているものと調和させていくことを言っております。



す。江戸時代に松尾芭蕉が「俳諧」を「奥の細道」で旅の中で最も体得した極意とされています。現代社会ではスマホやAIが新しい手法として取り入れられていま

す。

我が岐阜東高校では創立以来の建学の精神「やりぬく精神」が有ります。これが「不易」に相当すると思います。事の始まりは、第2代校長の後藤秀彦先生が、体育祭にあたり、自分もマラソンに出場したいと言われたのが始まりと聞いています。当時すでに70歳を超えていて後藤校長先生は、周囲の先生方や生徒から、「ご高齢の為出場を見合わせるよう」と説得されたそうです。しかし校長先生は生徒の前で宣言したので最後まで走りぬくことを誓い、当日見事に完走されたそうです。それ以来、わが校には「やり抜く精神」が伝統として代々伝わることになりました。私が学生の時には既に「やり抜く精神」で頑張れと励まされたものです。今日ここに、役員4名で入会式に臨んでおりますが、他のいずれの役員も同窓生皆が、高校生時代に教えられた「やり抜く精神」を社会に出てからも心に刻み頑張ってきた。どうぞ皆さんも母校の建学の精神を受け継いで頂き、これからの人生を歩んで頂きたいと思います。



続いて、江刺潤（13期卒）副会長から「令和6年度同窓会会則」の説明がありました。特に、同窓生達との連携を図る同窓会クラブとして「議員さんと珈琲タイム」や「中山道宿場町探訪」が有りますので、ぜひ皆さんにも参加して頂きたいとのことでした。



引き続き坂井会長から、学生生活で顕著な活動をされた3名の方に「同窓会賞と記念品」をお贈りしました。また、今後同窓会の諸行事の連絡をお願いする12名のク

ラス幹事の方々に「クラス幹事委任状」をひとり一人にお渡ししました。江刺副会長からは、第66期入会者全員に「卒業記念品」をお渡ししました。

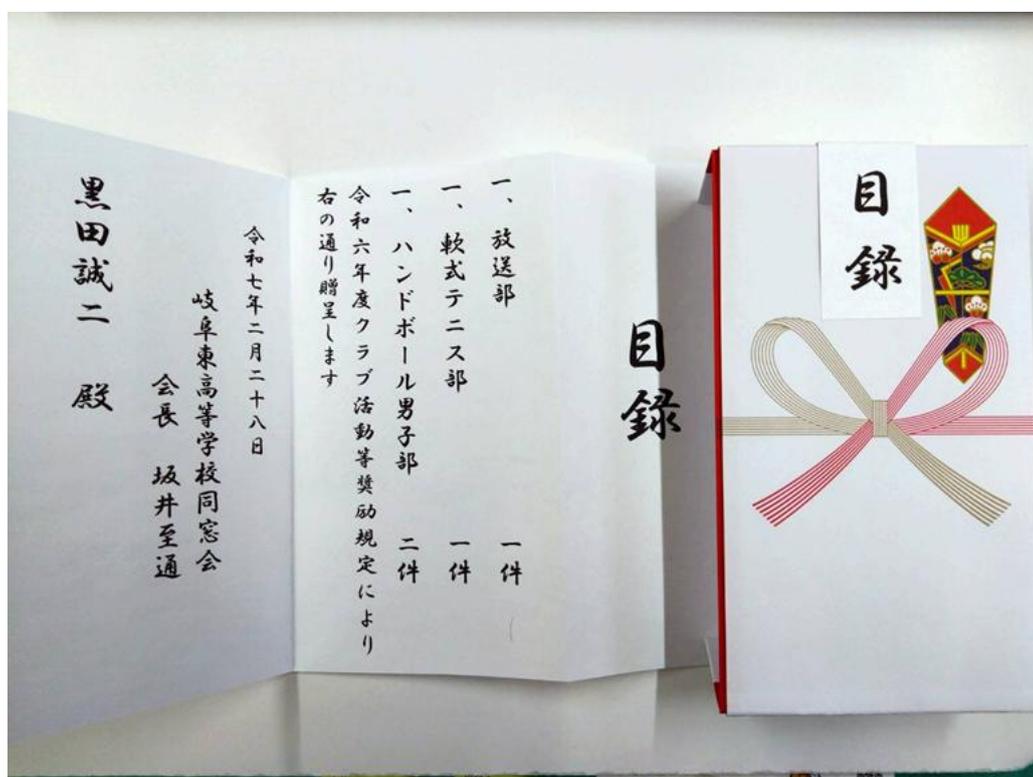


第一期卒業生が巣立ってから66年
が過ぎ、今日では同窓生も19,000人
を超えています。皆さんにも、今後の
同窓会発展にご尽力頂きますようお
願いし閉会としました。皆さんの卒

業式は明日（令和7年3月30日）です。

2. 令和6年度の部活動等奨励金目録の贈呈式

引き続き校長室で、令和6年度の部活動等奨励金目録を黒田校長に手渡ししました。



(記録および写真 書記 福手一義 10期卒)